

夏秋ギク型無側枝性キクの6月出し栽培における腋芽発生抑制法

農業研究センター 農産園芸研究所 花き部
担当者：金子英一

研究のねらい

無側枝性ギクは、腋芽(側枝)の発生が少なく、摘芽・摘蕾作業の省力化が可能なことから生産が増加している。しかし、夏秋ギクの6月出しの作型では腋芽の発生が多くみられるので、腋芽の消失に及ぼす栽培温度の影響を解明し、夏秋ギクの6月出し栽培における腋芽の発生抑制技術を開発する。

研究の成果

- (1) 無側枝性ギクの腋芽の発生は、栽培時の温度の影響を受け、昼温が30以上になると腋芽数は減少する。夜温の影響はほとんど受けない。また、1日の30 遭遇時間が長くなるほど腋芽数は減少する。
- (2) 夏秋ギク型の無側枝性ギク品種「岩の白扇」「精の輝」の6月出しの作型では、30以上の高温に1日当たり6時間程度に遭遇するような温度管理を、定植直後から消灯1週間後まで継続することにより、腋芽の発生を抑制できる。
- (3) 以上のような管理で、上位の腋芽発生数を、無処理の場合の30~40芽程度から10芽程度まで抑制できる。

普及上の留意点

- (1) 通常、さし穂には未展開葉が20枚程度あり、下位の10数枚の葉腋では、すでに腋芽が形成されているため、高温遭遇させた無摘心栽培でも萌芽する下位節の腋芽の除去は必要である。
- (2) 日中、蒸し込みにより高温管理する場合ハウス内温度(35以上)が上がりすぎや蒸込み時間(6時間程度)が長すぎると花持ちが悪くなるので、必ず換気の時間をもうける。

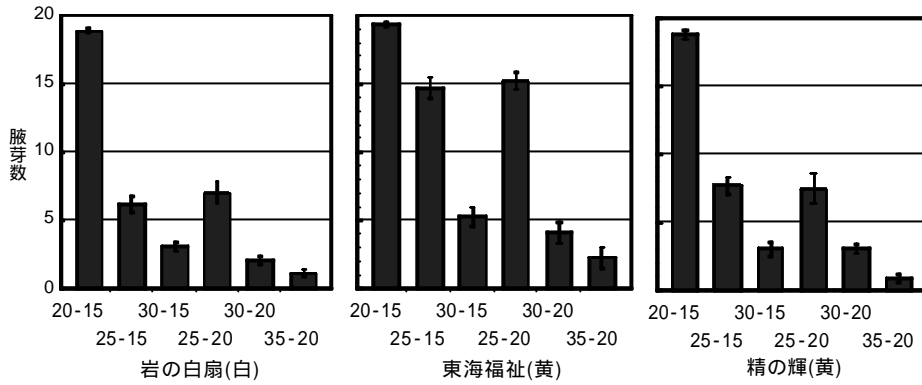


図1 無側枝性品種における側枝の腋芽形成に及ぼす昼温及び夜温の影響 (腋芽数:下位20節当たり)
注) 昼温 - 夜温、昼温10時間、夜温、10時間、4時間は変温時間

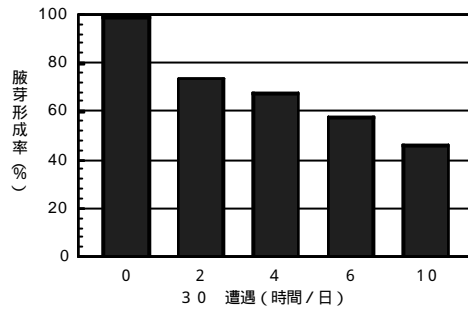


図2 30°C 遭遇時間が腋芽形成に及ぼす影響 (品種: 岩の白扇)

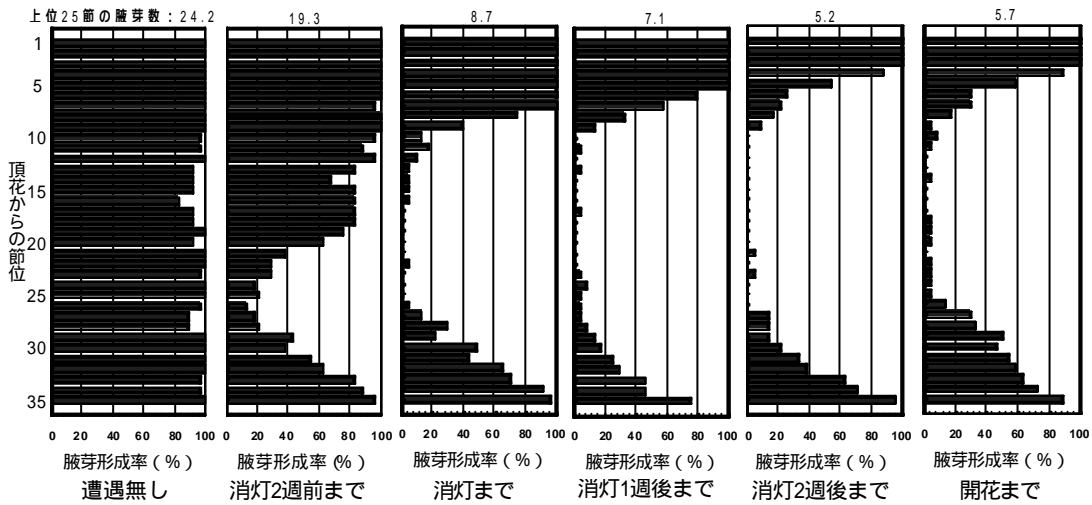


図3 30°C 遭遇時期が節位毎の腋芽発生率の及ぼす影響 岩の白扇
注) 30°C 遭遇時間は10時間/日、温度処理は定植4日後、消灯35日前から

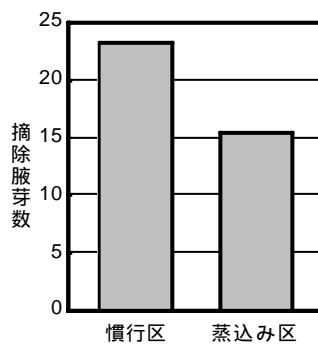


図4 6月出しの作型における蒸込みによる腋芽発生抑制効果 (品種: 岩の白扇、消灯前後2週間の蒸込み、上位70cmの摘除腋芽数)